

マサイ戦士の赤服

アフリカのケニアとタンザニアに行ってきた。ツアー参加者は車いすの人、全盲の人を含む十一人と私と

このまさこのおそど まさこの地球は狭いな



添乗員。二台のサファリカーに分乗して、ケニアの四つの自然保護区と、タンザニアの二つ、トータル千五百キ、余りを正味九日間で巡った。

境を歩いて越え、赤道では、簡易トイレを設営し、皆でトイレ経験をし、日本茶とおせんべいで乾杯した。今回の旅で私は願いが一つあった。

実は前回、ケニアのマサイ自然保護区にあるマサイ族の村にでかけ、歓迎の踊りをしてくれた一人が着ている赤い服に惹かれ、着せてもらった。直線裁ちの真っ赤な布の片方の上端をむすんだだけと同じ布を

マサイ族は牛糞で固めた家にミシン目のついた服で住んでいた
ケニアで（黒田玲さん撮影）



その後、ツアー中ケニアの各地で探したが、柄物はあっても、そのマサイの赤服には会えずじまいだった。

甚平・どん兵衛でゲット

腰巻き風にしたスリーピースだった。思わず「これがほしい」と言ったら、二十

の許容範囲をはるかに超えていたからだ。誰かが「旅の途中どこかで新しいのが買えるのでは」とささやいた。そうだな、と思ったのが運のつき、

衣料品スーパーへ行き、マサイの好きそうな服はないかと探した。XLサイズの「甚平」を手に入れた。彼らはスリムだが、背が高い。あいにく地味な青いも

のしかなくて、派手な赤好みのマサイ族の人々に気に入られるかどうか？ スーツケースの中にカッパうどんも数個しのぼせた。果たして「どん兵衛」と「甚平」で、マサイ戦士の赤服を手に入れられるか？

ケニアとタンザニアの国境近くはマサイ族がたくさん住んでいる地域だ。壁や屋根を牛糞と土で固め、中は四畳半ほどの土間に面した三畳ほどの二部屋と子牛の小屋のトータル約四十平方メートル程度の電気なし、水道なし、井戸なし、トイレなしの家が数十軒並んでいる集落だ。

私たちが訪れたマサイ村は、観光客を受け入れ、入村に一人二十ドルずつ取られた。まず歓迎の踊りが始まったが、私はひとりの若者に近づいた。「あなたの服、これと代えてくれない？」と持ってきた甚平をひ

らば、観光客を受け入れ、入村に一人二十ドルずつ取られた。まず歓迎の踊りが始まったが、私はひとりの若者に近づいた。「あなたの服、これと代えてくれない？」と持ってきた甚平をひ

ろげて見せた。彼は甚平の上着とパンツを興味津々ながめていた。でも交換はしなかった。それから十分後、交渉は甚平とおまけのどん兵衛二個（三百円程度）をつけて、成立した。

手に入れたマサイ戦士の赤服は、九十センチ幅で長さ百六センチの木綿の布二枚。それを両肩に結び目が来るよう、頭からかぶって着る、シンプルな服だった。が、縫い代を見ると、幅は一センチ、一つは赤い糸で、もう一つは黒い糸を使い、手縫いではなく、ミシンで縫ってあった。時代の流れとは言葉、牛糞の家にミシン目の服は似合わないと思

ったのは私だけだろうか。（トラベルデザイナー）

せいかつ 21

